ごあいさつ

甚大な被害をもたらした東北地方太平洋沖地震の発生から 2 年半が経過しました．復興は進展しつつありますがまだ時間を要します．一方，近い将来発生することが予測されている南海トラフ地震や首都圏直下地震では，東日本大震災をはるかに上回る被害想定がなされており,「国難」と表現される事態に対しての準備が喫緊の課題となっています. また，気象庁が「これまでに経験のない」と表現したり，特別警報を発するような記録的短時間大雨等の集中豪雨による被害，さらには，竜巻による被害が頻発しています．さまざまな機能が発達した現代社会は，以前よりも厳しくなった自然の脅威に対して，過去の災害の経験からだけでは考えられないような，ぜい弱さを持つものとして対処することが重要と考えられます.

さらに，従来から重要性が認識されてはいたものの，急速に進む構造物の老朽化に対して，必ずしも十分な取り組みがなされていなかった構造物の維持管理や長寿命化に関する課題に対しても，広く社会的な関心が高まりつつあります.

政策として「国土強靭化」がうたわれ，国土交通省の掲げる重点分野で「国民の安全・安心の確保」として，防災・減災，構造物の維持管理・長寿命化に積極的な取り組みがなされようとしています．経済政策の「3 本の矢」に加え，東京オリンピック招致決定，リニア新幹線路線決定などで，経済の先行きには大きな期待が膨らみ，国土強靭化政策も，積極的な実行へと大きく舵が切られたと考えられます.

飛島建設は，災害や激変する地球環境から，人々の暮らしと命を守るという建設事業の根源的な使命を「防災のトビシマ」という標語であらわし，防災・減災に関わる技術，環境に関わる技術，社会基盤を維持し持続可能なものとしていく技術など様々な面から，安全・安心な社会を築き，堅持していくことに貢献すべく，全社を挙げて取り組んできました．創業 130 周年を迎え，これまでの取り組みを振り返り総括した上で，改めて，建設事業に関わる企業として，インフラ整備と機能維持の必要性と重要性を再認識し,「防災のトビシマ」を進化させ，安全・安心な国土づくりへの貢献という社会的使命と役割を果たしてまいる所存です.

今回お届けする「とびしま技報」第 62 号では，当社の取り組んでいる技術開発の成果や建設現場での施工に関わる成果の一部について，18 編を掲載いたしました．多くの皆様方に御高覧いただければ幸いです.

私どもの活動が，日本の復興・発展と今後の災害への備えなど，皆様の安全・安心に，また，持続可能な社会の構築に少しでもお役に立ちますよう，研究開発を行っていく所存です．これまで同様，トビシマへの御指導，御鞭撻をよろしくお願い申し上げます.

2013 年 9 月
執行役員
技術研究所長
三　輪　　滋